

令和2年度 創進高等学校 学校自己評価

学校運営計画			
学校運営方針	自己の可能性にチャレンジし,新しい時代に活躍できる心身ともに健康な人間を育てる。		
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標	
<p><成果></p> <p>挨拶については、生徒自らが少しずつ実践できるようになってきた。社会性育成の観点からも更なる育成に努めたい。</p> <p>進路資料を充実させ、情報を提示することによって、目的意識の早期構築につながる端緒となった。</p> <p><課題></p> <p>①基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成</p> <p>②基礎学力の定着と家庭学習の習慣化</p> <p>③希望する進路実現に向けた意識の向上と家庭との連携および共通理解</p>	<p>基本的な生活習慣の確立と生徒指導の充実</p>	<p>全教職員の共通理解のもと、端正な身なり・挨拶・時間厳守等の習慣を身につけさせる。生徒指導を行う上で基盤となる、教員と生徒の共感的な人間関係をつくる。</p>	
	<p>基礎学力及び学習意欲の向上</p>	<p>家庭学習定着のための指導の工夫。生徒一人一人に応じたきめ細かい指導。進学や資格取得を目指し、学校生活に目標を持たせる。ICT機器を効率的に活用して新たな学びに対応させる。</p>	
	<p>希望する進路の実現</p>	<p>進路・学年・保護者間で緊密な連携をして進路指導を行う。進路ガイダンスや大学説明会、企業見学等を通して、有益な情報を提供する。生徒が志望校・科目選択を正しく行えるように、的確な受験指導を行う。</p>	
デザイン・アートコース・キャリアコース共通			
生徒指導	「あ・じ・み三原則」の定着	“あいさつ・時間厳守・身だしなみ”の習慣づけと定着への積極的な声掛け指導を行い、意識させる。	B
	メディアリテラシーの向上	SNS等で誹謗中傷をしない、させないために、生徒に思いやりの心を育ませ、人間関係を工夫させる。学校生活の中で、集団を意識させ、公共の場であるという意識を持たせる。	B
	環境美化意識の向上	各教室や階段、その他場所について、丁寧な掃きそうじと週1日以上の水拭き掃除を徹底させる。職員も細やかな清掃指導を心がけ、全校で奉仕の心を育む。	B
保健指導	健康の維持	生徒が自ら健康課題について考え、判断し、行動できるような実践的な能力や態度を身につけるよう指導と支援に努める。また、保護者面談や保健室だより等様々な機会を通じて、保護者へ啓発する。	A

	健康上の課題に対応	心身に、健康上の課題がある生徒の把握を的確に行い、その指導と支援について保護者、家庭との連絡を密にする。そのため、普段から教職員同士のコミュニケーションを図り、課題に対して適切に対応する。	A
	関係者との連携	保護者・専門機関との情報交換を密にし、連絡体制を形成する。	A
デザイン・アートコース			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価
学習指導	授業の充実	日々の授業に集中することを通して学ぶ喜びに気づかせる。	A
	予習復習の実施	1人ひとりが学習習慣をより確かなものにする。	B
	学習「課題」の取り組み	自ら積極的に課題に取り組み、創造力を高めるようにする。	A
進路指導	自己の発見	早期に自己の特性に気づかせる。	B
	進路目標の決定	自己の目標について具体的な方策を確立させる。	A
	目標実現のための取り組み	自ら計画し、意欲的・積極的に学習に取り組み、自己の目標を達成させる。	B
キャリアコース			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価
学習指導	生徒目線に立った授業改善に努める。授業中、生徒一人一人のつまづきを見過ごさないよう努める。	机間指導を充実させ、授業時間内の生徒一人一人の状態をきめ細かく把握し、つまづいている生徒がいればその場で解決するように努める。	B
	I C T機器を活用して視覚的教材を授業に取り入れる。	I C T機器を随時活用して視覚的教材を取り入れ、理解しやすくするよう努める。	C
	レポートを確実に提出させ、学びの好循環につなぐ。	レポートについては、その日の授業内容に該当する部分を授業時間内で行わせたり、レポート本体に細かく教材のページ数を示したりして解きやすくし、レポートを確実に提出できるように授業者が工夫する。	B
進路指導	体系的な進路指導を図る	進学、就職に向け、模擬試験、小論文、面接、志望理由書等の指導を行う。	B
	進路情報の迅速な提示	進路資料の精選と提示を工夫し、活用しやすい状況を提供していく。	B
	主体的な進路選択の支援	面談等を通じ、個々人に寄り添った進路指導を行い、可能性を引き出す。進路ガイダンス等を端緒とし、進路意識を高め、進路実現のためにすべきことを意識できるようにする。	B

成果と
課題

<生徒指導>

あ・じ・み三原則について、挨拶は少しずつではあるが自ら行う者が増えてきており、日ごろの教員の声掛けが成果を上げている。時間厳守については、遅刻や提出物の期限厳守について生徒の意識が低い。各担任や教科担当が工夫をして視覚化し、継続した指導を行っている。身だしなみについては、ピアスや化粧、頭髪についての定期的な検査を行うことができなかった。数名の生徒が同じ指導を年間受けており、保護者と連携して指導にあたる必要がある。

メディアリテラシーの向上について、SNS 等で誹謗中傷をしない、させないの意識は持たせることができたが、スマートフォンに依存している者は多い。LHR や全校集会において、引き続き指導をし、思いやりの心を育む必要がある。

環境美化意識の向上について、日常的に自教室の環境美化に努める者は少ない。担任が役割分担を示し、各生徒に責任を持たせることで奉仕の心を育んだ。そもそも掃除の仕方を知らない生徒が多いので、引き続き根気強い指導と教員の寄り添う姿勢がひつようである。

<保健指導>

新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら、生徒が自ら感染症の予防に努めることができたことで、クラスター発生を防止できた。また、保護者との連携を密に図りながら協力し合ったことで大きな成果を上げることができた。

【デザイン・アートコース】

<学習指導>

基礎学力の定着及び、強化を目指し朝学習では全学年でマナトレ、1・2年生は放課後に英語補習を行った。また今年度は個別の家庭学習指導を学年ごとに行ったが、家庭学習の定着及び強化を図りたい。また、学習のスケジュールや勉強の仕方も継続して見直し、改善を図る。

模擬試験では課題が多く、事前の対策や試験後の解説実施を行うなど次年度は改善していく。進学へむけて実技、一般教科共に強化方法を改善していく。

<進路指導>

3年生 11名中6名が美術系大学へ進学。その他専門学校への進学や就職内定も決定している。指導の中で総合型選抜入試については指導に時間が必要であるので、この反省を活かして次年度は夏休み前から指導を行う。また一般入試について、実技はもちろんのこと、1・2年時から英語と国語の指導を強化し、各種模擬試験の活用を図る。

【キャリアコース】

<学習指導>

「生徒目線に立った授業改善」については、机間指導の充実において教員間でばらつきが

あり、今後も授業者全員で意識して努めていく必要がある。また、「レポートの確実な提出」にも関連して、あくまでも学びの主体は生徒であるという意識を常に持ち、そこに寄り添う教授方法・授業のやり方を工夫し、生徒にどれだけ内容が伝わったかを授業者自身の評価とする基本姿勢を保持して、日々の授業を行っていく必要がある。「ICT機器の活用」に関しては英語科で常時活用されている程度で、目立った活用成果はなく、全体としては後れを取っているのが実情であり、今後は機器の充実とともにこの視点から授業改善を図ることが喫緊の課題である。

<進路指導>

段階的に進路学習を進めていくため、目的意識を持って進路行事計画を進めていく必要がある。進路資料等も生徒の手に届くように掲示や配付を工夫し、学年に応じて進路意識を高められる資料として活用できるようにしていく必要がある。また、進路意識の端緒となるよう、各種進路行事をはじめとし、様々な形式から対象に迫るよう工夫を施し、生徒自身が主体的な進路選択を促せるよう、担任と連携しながら進めていくことが必要である。更に、教員間で進路情報を共有できるよう最新の進路に関する情報は速やかに回覧し、進路指導に役立てるようしていく必要がある。

※評価は3段階(A・B・C)で行う。